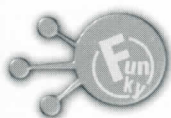
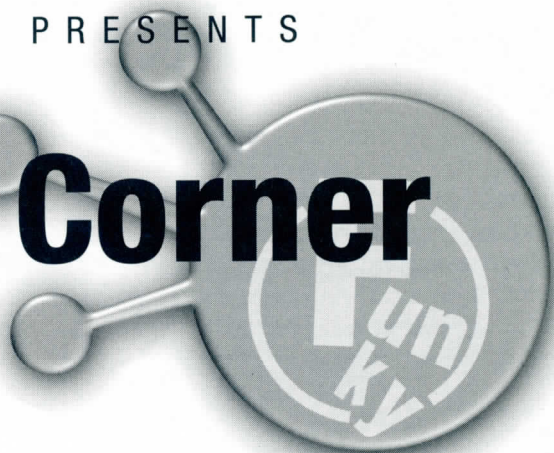


TOSHIRO HATA PRESENTS

# 波多利朗の Funky Corner

文●波多利朗 text by Hata Toshiro

(URL) <http://www.sky-sea.co.jp/~catty/>(E-Mail) [catty@mxp.mesh.ne.jp](mailto:catty@mxp.mesh.ne.jp)

## ごあいさつ

去る4月2日、ラッセル社出版が倒産し、同時に筆者が5年に渡って連載を掲載してきたPC WAVE誌も廃刊となった。この瞬間、筆者は難民ライターとなり、路頭に迷うこととなる。自慢にもならないが、筆者はゲークでマイナーでカルトな物に異常な執着を示す、PC業界のお笑い変人ライターを目指している。したがって、こんな変なライターの原稿を掲載してくれるような奇妙な出版社など、あるわけ無いと信じて疑わなかった。これでいよいよライター稼業も終わりだなあと独り寂しく八海山(吟醸)をちびちびやっていたところ同じくPC WAVEのライターであるS氏よりメールを頂いた。因みに筆者は日本酒が大好きであるが、中でも八海山がお気に入りであり、大山も捨て難いと思っており、いやいやどうして加賀鳶や吉野川もいいよねえ、そう言えば土佐鶴も久しぶりに飲んでみたいけど、ありゃ結構高いから難民ライターの身分じゃ当分無理だわな、なんて感じの人間である。おっとすっかり脱線してしまっただが、何を話していたかというところS氏からメールを頂いたということであった。

氏のメールによれば、MobilePRESS誌が筆者の書き下ろし記事を掲載しても良いとの意向を示しているとのこと。感謝感激雷おこしである。こうして

ヤケ酒アル中モードに入っていた筆者は、再びモバイル系の記事を執筆する機会に恵まれたのであった。それにしても、MobilePRESS編集部の方は筆者のような変人ライターを迎えてしまい、まことにもってご愁傷様としか言いようが無いな。まあ、これも運命だと思って諦めてください。読者の方の中には、「なんじゃコイツは?」と思われる人も多いかと思われるが、息抜きのつもりでお付き合い願えたら幸いである。さてタイトルは……そうだのう……今は亡きPC WAVE誌への鎮魂の意味を込めて「波多利朗のFunky Corner」とでもしましょうか。^O^;;

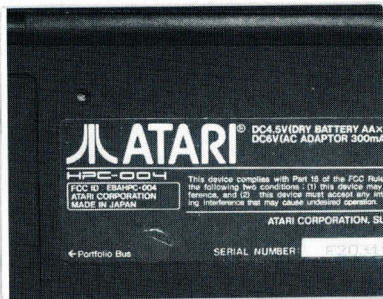
## ATARI Portfolio というマシン

さて、今回はバームトップ機往年の銘機であるATARI Portfolioについて、2回に渡りご紹介しようと思う。前編である天の巻では、Portfolioというマシンの概要をご紹介し、後編である地の巻ではPortfolioを取り巻く様々な周辺機器をご紹介する予定である。当初は1回で全てをご紹介する予定であったのだが、今までに購入したPortfolio用グッズを棚卸してみたところ、いや出てくる出てくる……と



### 001 ATARI Portfolio外観

ATARI Portfolioの外観。VHSカセットテープとほぼ同程度の大きさ



### 002 ATARI Portfolio裏面にあるシール

ATARI Portfolio裏面に記載されているMade in Japanの表示。日本じゃ無名であるが、れっきとした日本製のバームトップだ

でも1回ではご紹介しきれないので、2回に分けたというワケである。

さて、ATARI Portfolioと言えば、知っている人は知っているけど、知らない人は知らないであろう（考えてみれば当たり前だな）。

Portfolioは1989年に発売されたVHSカセットテープサイズのバームトップパソコンである（001）。マシン裏面のシールには、ちゃんとMade in Japanと記載されているにもかかわらず（002）、日本語化されなかったため、日本での知名度は極めて低いといった暗い過去を持つ。しかし海外、特にヨーロッパでは今だに現役で使用している方も多く、ワールドワイドでの人気は高い。

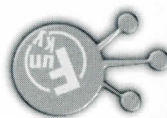
Portfolioは、CPUに80C88Aを搭載したIBM PCコンパチのマシンであるが、完全なIBMコンパチ機では無い。すなわち、ビデオ回り（LCDの解像度）が特殊仕様となっており、通常のCGAマシンのように、ディスプレイドライバを用いた日本語化（DOS/C化）は困難であるし、IBM PC用ソフトウェアも画面解像度の関係で、そのまま動作するというわけではない。

Portfolioのオペレーティングシステム（OS）には、SHARPのバームトップ・パソコンであるPC-3000（003）と同様、英国DIP社が開発したMS-DOS互換のOS、DIP Operating Systemを採用している。

余談になるが、SHARP PC-3000は、1991年頃に発売された極めて良くできた日本製のバームトップパソコンである。しかし、英語版しか製造されず、

日本国内では販売されなかったため、日本での知名度は極めて低いという、これまた暗い過去を持つ、つつつか、おかげで謎バ〜マニア諸氏の格好の遊び相手となったのである。

このSHARP PC-3000は、もともとATARI Portfolioの後継機種として登場する予定であった。ATARI Portfolioは、その発売直後からRAM容量が少ない、LCD画面が小さい、バッテリーが消耗するとデータが消える、等の様々な問題点が指摘されていた。これらの点を改良すべく、DIP社はPortfolioの後継機種、Portfolio 2を開発したのであるが、ATARI社はこのPortfolio 2を次期製品として採用せず、SHARPがPortfolio 2のライセンスを買い取り、PC-3000として製品化したのである。



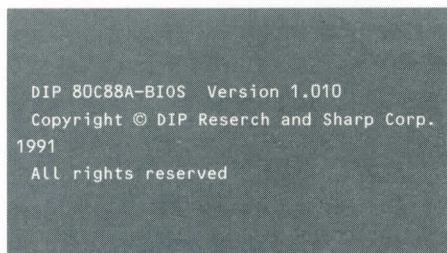
### 003 SHARP PC-3000

SHARPがかつて発売したバームトップパソコンPC-3000。英語版オンリーであったため、日本での知名度は低い

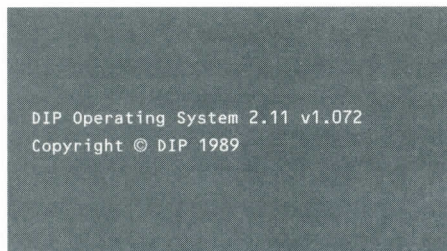


こうして、本来ならば、Portfolioの後継として位置付けられていた製品がSHARPより発売になった。ATARIのPortfolioもSHARPのPC-3000も、ブート時にDIP社のクレジットがLCDに出力される。このことから、両者のつながりを知ることができる。参考までに、下記にPC-3000とPortfolioのブート時のメッセージを示しておく。

## SHARP PC-3000ブート時のメッセージ



## ATARI Portfolioブート時のメッセージ (004)



SHARP PC-3000とATARI Portfolio、この両者の間には一見して何のつながりも無いように見えるが、

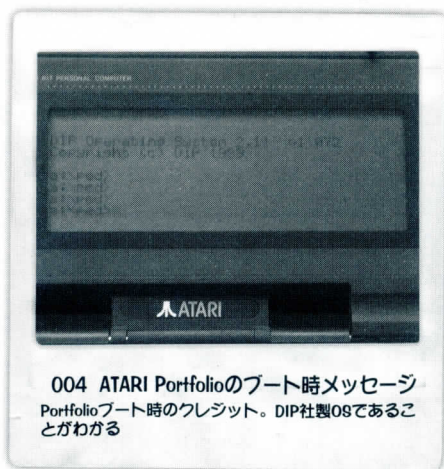


## 005 Portfolioの液晶画面

Portfolioの液晶画面。古いマシンであるにもかわらず、液晶視認性は極めて良い方だ

実は異母兄弟みたいなものなのである。ブート時のメッセージ以外にも例を挙げれば、ATARI Portfolioには、電源スイッチというものが無く、コマンドラインでoffコマンドを入力すると電源が切断されるが、PC-3000にも全く同じコマンドが用意されている。このあたりからも、両者のつながりを感じ取ることができる。

話をPortfolioに戻そう。Portfolioの液晶解像度は、前述した通り特殊仕様で、40キャラクタ×8行表示となっている。古い製品であるにもかかわらず液晶の品質は高く、視認性は非常に良い (005)。本体内蔵メモリは128Kバイトぽっきりである。現在のパームトップと比較するとゴミみたいな容量と言えるであろう。確かNECの初代PC-8801の内蔵メモリ容量と同じだったと思う。そう言えばPC-8801が



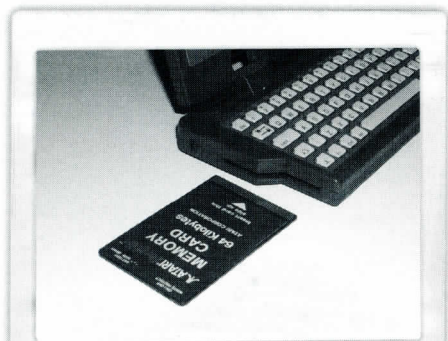
## 004 ATARI Portfolioのブート時メッセージ

Portfolioブート時のクレジット。DIP社製OSであることがわかる



## 006 Portfolioのキーボード

Portfolioのキーボードのアップ。キートップ左上が欠けているオシャレなデザインである



### 007 カードスロット

Portfolio本体に設けられたカードスロットのアップ



### 009 Portfolio Bus

Portfolio本体右側に設けられているPortfolio Bus。専用の拡張バスコネクタである

発売された当時は、メインメモリがたったの128Kバイトでも驚異的大容量であり、ユーザ連中は「こんな広大なメモリ空間をいったい何に使うのか?」と途方に暮れたものである。それを考えると、隔世の感があるな……。

キーボードは、ボタンのタイプのQWERTY配列63キーで、このクラスのパームトップ機としてはキーボードが比較的大きく、またクリック音を出すことも可能なので、タッチタイピングは容易なほうと言える。キートップは、左上が欠けたデザインとなっており、こんなところもなかなかオシャレだ (006)。

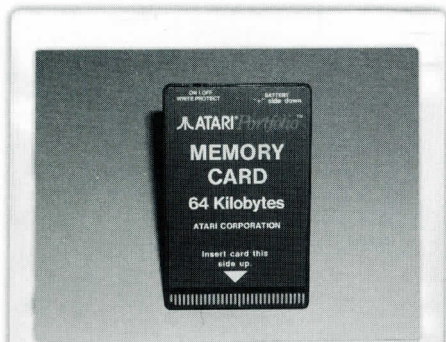
カードスロットは本体左側に1個実装されているが (007)、残念ながらPCMCIA規格では無い特殊仕様のものである。Portfolioで使用する拡張カードは、カード上面に32個のコネクタ端子がむき出しで

並んでおり、PCMCIA規格のカードとは形状が全く異なる。写真はATARI社純正の64Kバイト (64Mバイトでは無いので念のため!) SRAMメモリカードであり、データ保持用電源には、CR-2016を使用している (008)。カードは端子面を上にしてスロットに挿入する。イジェクトボタンといったシャレたものは付いていないため、本体から取り出す場合には、カードの露出部分をつまんで引っ張り出す。

Portfolio本体の右側にはPortfolio Busと呼ばれる専用のバスが設けられており、ここに別売りのユニットを接続することで、パラレルコネクタやシリアルコネクタを増設することができる (009)。このPortfolio Busは、アドレス・マルチプレクスされたシステムバスで、その制御ラインの仕様もドキュメントで公開されている。バスの信号線数は60本で、アドレス・データ兼用のAD0~AD7とアドレスラインであるA8~A19、及び各種制御ラインが配置されている。

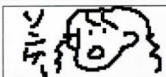
Portfolio本体に実装されているメモリは、デフォルトでRAMが128Kバイト、ROMが256Kバイトである。但し、内蔵RAM容量はメイン基板上で512Kバイトまで拡張した超アヤシイ製品がチェコスロバキアで販売されており、筆者も使用している。またPortfolio Busに拡張ボックスを接続することでメインメモリ容量を増強する、これまた超怪しいユニットも発売されており、これについては地の巻で紹介する予定である。

なお、このATARI Portfolioが、ジェームズ・キャメロン監督の映画「ターミネーター2」にも登場したことは、マニアの間では結構有名である。映画の



### 008 ATARI Portfolio専用カード

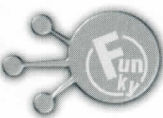
Portfolio専用仕様のPCカード。これはATARI純正64Kバイト (64Mバイトじゃない!) メモリ拡張カードである。このカードも日本製



前半で、サラ・コナーの息子であるジョン・コナーが、携帯端末を使用して銀行のキャッシュディスプレイをハッキングする場面があるが、そこで用いられている端末がATARI Portfolioなのである。超古型パームトップでハッキングを行うとは、なかなか凝った演出といえるであろう。

以下に、ATARI Portfolioの仕様を示しておこう。

ATARI Portfolio仕様	
メーカー	ATARI
CPU	80C88A
搭載メモリ容量	ROM 256Kバイト/RAM128Kバイト
ディスプレイ	40キャラクタ×8行表示 アクティブエリア：114mm×30mm
キーボード	QWERTY 63キー・キーボード（ボタнтаイプ）
I/Oポート	Portfolio Bus実装（オプションのシリアル及びパラレルケーブルを接続する）、Memory Card Slot1実装（独自仕様）
バッテリー	単三乾電池 3本
ACアダプタ	別売り
内蔵ソフトウェア	DIP Operating System 2.11、Address Book、Calculator、Diary、Editor、Setup、Worksheet
サイズ	200mm (W) ×105mm (D) ×29mm (H)
本体重量	525g（乾電池を含む）
発売当時の価格	\$300



## Portfolioの外部インターフェース

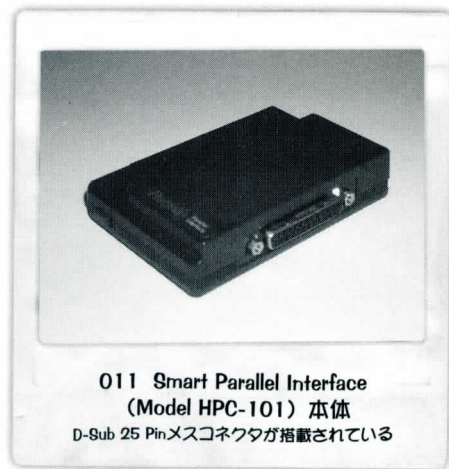
ATARI Portfolio本体には汎用のパラレル、シリアルコネクタが装着されていない。従ってパラレル、シリアルインターフェースを使用する場合には、Portfolio Busに別売りのユニットを接続することで行う。このユニットには、ATARI社から純正のパラレルインターフェースとシリアルインターフェースが発売されている。

### 1. パラレル・インターフェース (Model HPC-101) (010)

Smart Parallel Interface (Model HPC-101) は、Portfolio Busに接続してD-Sub 25 Pin メスコネクタを得るためのユニットである (011)。ユニット本体の他に、MS-DOSベースのファイル転送ソフトウェア



010 パラレルインターフェースセット  
Smart Parallel Interface (Model HPC-101) の商品構成



011 Smart Parallel Interface (Model HPC-101) 本体  
D-Sub 25 Pinメスコネクタが搭載されている

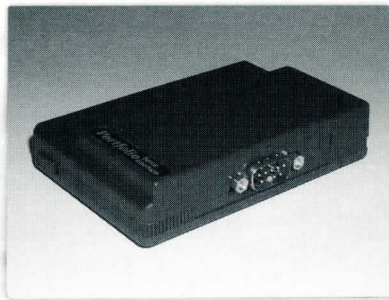
「File Transfer Program for the Smart Parallel Interface」が、5.25インチと3.5インチのFDで付属する。パラレル・インターフェース・ユニットを使用することにより、デスクトップPC本体との接続やプリンタなどの周辺機器の接続が行える。また、サードパーティーが開発したドライバソフトを使用すれば、パラレル接続のZIPドライブさえも接続可能となる。このドライバについては、地の巻で紹介する予定だ。

### 2. シリアル・インターフェース (Model HPC-102) (012)

Serial Interface (Model HPC-102) は、Portfolio



**012 シリアルインターフェースセット**  
Serial Interface (Model HPC-102) の商品構成



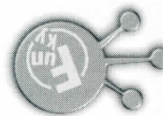
**013 Serial Interface**  
(Model HPC-102) 本体  
D-Sub 9 Pin オスコネクタが搭載されている

Busに接続してRS232-C互換のD-Sub 9 Pinオスコネクタを得るためのユニットである (013)。パラレル・インターフェースユニットは現在でも比較的容易に購入することが可能だが、このシリアル・インターフェース・ユニットは、今となっては在庫がほとんど無いためか、滅多に見かけることがない貴重なオプション製品となってしまった。データの転送速度の上限は9600bpsとなっており、この辺にも時代を感じさせる。

という。

さて、Portfolio専用PEDは、NIFTY SERVEの下記データライブラリから入手することが可能だ。

- ATARI Portfolio専用  
日本語エディタ PED本体  
NIFTY SERVE システム手帳 (PIM)  
フォーラム (FPIM) データライブラリ2番  
フリーソフト・データ (一般)  
293番 PEDA0201.LZH Portfolio日本語Editor V2



## Portfolioでの 日本語入力

ATARI Portfolioは、MS-DOS互換のDIP-OSを採用しているが、液晶画面表示が特殊仕様となっているため、日本語エディタには、Portfolio専用のものを導入しなくてはならない。こんな昔の、しかもこんな特殊なマシンの日本語エディタを作成する変人なんかいるのかいな?と思われるかもしれないが、いるんだな、これが……^o^;;

Portfolioで使用できる日本語エディタは、現在のところPED (ペッドと読む) の、ATARI Portfolio版のみである。このPEDであるが、筆者の知人でかなりディープなバームトップマニアであるMadame Fatale氏が開発したものである。氏はPortfolioを溺愛しており、自宅には東欧から買い漁ったPortfolioが、確認されているだけでも5台以上蓄積されてい

上記日本語エディタは、NIFTY SERVEの他にも筆者個人のホームページからもダウンロードすることができる。URLは次の通り。

[http://www.sky-sea.co.jp/~catty/nazopa/atari\\_s.htm](http://www.sky-sea.co.jp/~catty/nazopa/atari_s.htm)

PEDを動作させるには、PED本体の他に、以下のファイルも必要となる。

- 恵梨沙フォント ELISA100.LZH
- かな漢字変換用辞書ファイル  
JMEMO用辞書 (大) JISYO\_L.LZH

これらのファイルはいずれもNIFTY SERVEのFHPPCで入手可能である。

PED本体のアーカイブファイル (PEDA0201.LZH) には、下記3種類のバージョンの実行ファイルが格

納されており、それぞれ使用するマシン環境に従って、使用するバージョンを選択する。

## ・ PED.EXE (ノーマル版PED)

内蔵メモリが128KバイトのPortfolioに、512Kバイト以上のメモリカードを実装した機種で使用するバージョン。起動時には約80Kバイト程度のシステムメモリの余りが必要。メモリカードは必須で、辞書及びフォントファイル格納に用いる。

## ・ PEDR.EXE (高速RAMフォント版PED)

本体内蔵メモリを512Kバイトに改造したPortfolio専用のバージョン。起動時に必要となるシステムメモリは、約180Kバイト程度。辞書及びフォントファイルの格納用に、512Kバイト以上のメモリカードが必要。このバージョンは、起動時にJIS第一水準のフォントをメモリ上にロードするため、動作が高速である点の特徴。

## ・ PEDMINI.EXE (軽量版PED)

最も小型、軽量のバージョン。内蔵メモリが128KバイトのPortfolioで動作する。辞書、フォント及びアプリケーション本体を、64Kバイトのメモリカードに格納可能。起動時に必要となるシステムメモリは、約80Kバイト必要。このバージョンは、JIS第一水準のみをサポートしており、かな漢字変換エンジンは、単漢字変換のみとなる。単漢字辞書はアーカイブに同梱されているため、別途辞書のダウンロードは不要である。

PED導入例として、本体内蔵メモリが128Kバイトのノーマル版Portfolioに64Kバイトのメモリカードを実装した製品に、上述したPEDMINI.EXEをインストールする場合について解説しよう。

## 1.必要なファイルの準備

Portfolio専用日本語エディタPEDA0201.LZHには下記ファイルが格納されている。

PEDR.EXE : 高速RAMフォント版PED本体  
 PED.EXE : ノーマル版PED本体  
 PED.MAN : ドキュメントファイル  
 PEDMINI.LZH : 軽量版PEDのアーカイブファイル

MINI.LZHを解凍する必要がある。PEDMINI.LZHを解凍すると、下記ファイルが得られる。

PEDMINI.EXE : 軽量版PED本体  
 PEDMINI.MAN : 軽量版PEDのマニュアル  
 JISYO\_T.DIC : 単漢字辞書ファイル  
 JISYO\_T.IDX : 単漢字辞書インデックスファイル  
 FONT8CUT.EXE : 第一水準フォント作成プログラム

PEDMINIに必要なとなるファイルは、以下の通り。

PEDMINI.EXE : 軽量版PED本体  
 JISYO\_T.DIC : 単漢字辞書ファイル  
 JISYO\_T.IDX : 単漢字辞書インデックスファイル  
 FONT8CUT.EXE : 第一水準フォント作成プログラム  
 ELISA100.FNT : jmemo用8ドット恵梨沙フォント

## 2.フォントの作成

軽量版PEDでは、フォントファイル容量を削減するために、恵梨沙フォントの中で第一水準のみを切り出して使用する。フォント切り出しを行うソフトウェアが、FONT8CUT.EXEである。まず、デスクトップパソコンの適当なディレクトリに

```
font8cut.exe
elisa100.fnt
```

の2個のファイルを置き、font8cut.exeを実行すると、elisa\_s.fntというファイルが生成される。このファイルが、JIS第一水準のみを切り出した恵梨沙フォントファイルとなる。

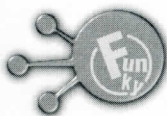
## 3.ファイルの転送

必要なファイルを、Aドライブとして認識されているPortfolioの64Kバイトメモリカードに転送する。ディレクトリ構成は、下記の通りとなる。

ファイル名	ファイル容量
A:\ — PEDMINI.EXE	16,883 bytes
— FONT—ELISA_S.FNT	27,912 bytes
— DIC — JISYO_T.DIC	14,311 bytes
JISYO_T.IDX	396 bytes
合計ファイル容量 59,502 bytes	

軽量版PEDであるPEDMINIを使用するには、PED

必要なファイルは総計60Kバイト程度となり、Port-



folioのカードスロットに挿入した64KバイトRAMカード中に格納することが可能である。

## 4. PEDMINIの起動

PEDMINIの起動は、コマンドライン上から以下のように入力する。

```
PEDMINI <ファイル名>
```

なお、PEDMINIでは、起動時に80Kバイト程度のシステムメモリが必要である。PEDMINIを使用すれば、内蔵メモリが128KバイトのPortfolioに、64Kバイトのメモリカードを実装した最小限のハードウェアリソース環境で、日本語文書の作成、編集が可能となる (014)。

常なことだな。氏はPortfolioでFORTHプログラミングにいそむという極北の趣味も持っており、先日Portfolio上で動作するセル・オートマトン・シミュレータを見せてもらった。魔人かくあるべしとあったところであろう。

## 次回予告

さて、今回は天の巻と称してATARI Portfolio本体の概略と純正オプション及び日本語化についてご説明した。次回の地の巻では、Portfolio用として開発された、様々な怪しいグッズ類をご紹介する予定である。本体仕様のほとんどが公開されており、なおかつ発売以来かなりの年月が経過しているマシンで利用者も多いとなると、実にいろいろな周辺機器が出てくるものである。主に東欧圏より取り寄せたこれらのグッズは、便利なものからブツ飛んだものまでバラエティー豊かだ。それにしても、Windows CEマシン全盛の現代において、ATARI Portfolioの紹介記事を掲載するこのMobilePRESS誌というのも、考えてみるとなかなか変な雑誌で非常に好感が持てる。え？ そんな変な記事を書く筆者は、もっと変だっただか？？？ そりゃごもっとも！ では……

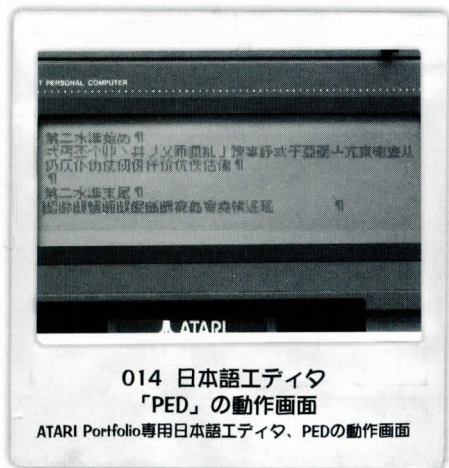


## Madame Fatale氏のPortfolioコレクション

最後に、ATARI Portfolio専用日本語エディタ、PEDの作者であるMadame Fatale氏のPortfolioコレクションをご紹介しておこう。

氏は、Portfolioのようなマイナーなマシンの日本語エディタを作ってしまう変人だけのことはあり、Portfolioをナント7台も所有していることが判明した。

しかし、日本ではほとんどと言って良いくらい見かけないマシンをこれだけ持っているというのも、異



014 日本語エディタ「PED」の動作画面

ATARI Portfolio専用日本語エディタ、PEDの動作画面



日本語エディタPEDの作者であるMadame Fatale氏のPortfolioコレクション

